

企画展

季節とともに

生きる

只見の野鳥と

その生態



はじめに

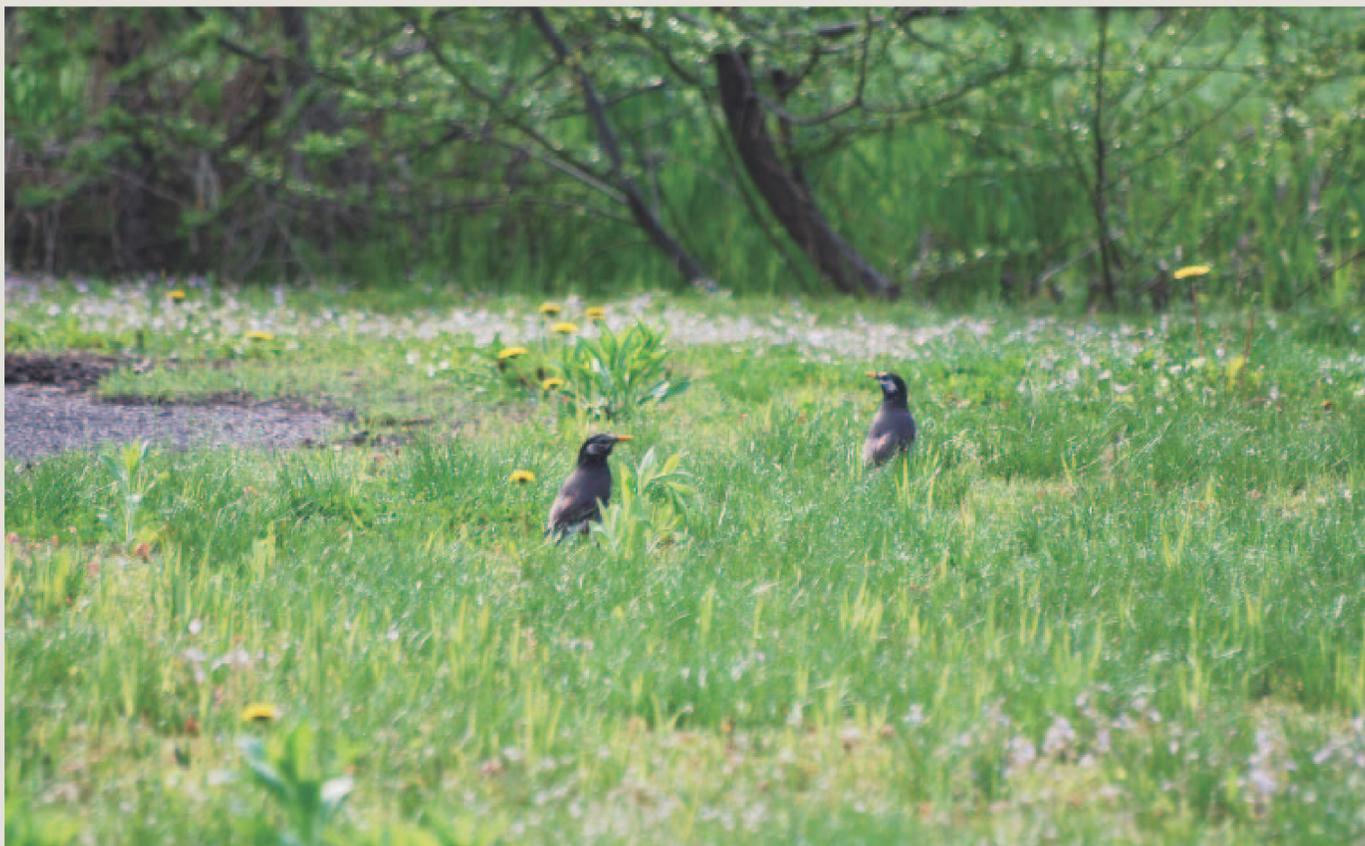
鳥類は、動物の中では、私たち人間にとって一番身近な生き物です。春、夏、秋、冬と季節を通して、自然の中だけでなく庭先でも見ることができます。また、鳥たちは私たちに季節の訪れを教えてくれます。4月中旬、白い雪の残る町中に、オオルリやキビタキといった鳥が南の国からやってきて、身近な世界にはなやかな色をそえてくれます。谷間や森に小鳥たちのさえずりが聞こえるようになるともう春です。

古来より日本人には、鳥を楽しむ文化があります。俳句の季語として「時鳥（ホトトギス）」や「雲雀（ヒバリ）」など鳥の名前が使われたり、花鳥画には様々な鳥が描かれてきました。鳥の鳴き声を人の言葉に置きかえて覚える「聞きなし」という風習もあります。例えば、ホオジロは「一筆啓上仕り候」、サンコウチョウは「月日星ほいほいほい」など、様々に工夫して鳥の鳴き声を覚えようとしていました。

今回の企画展では、只見町で見られる野鳥を季節という視点を通して紹介します。只見町は、山林原野が総面積の94パーセントを占める豊かな自然を持ちますが、反面、平地でも2メートルから4メートルに及ぶ積雪があるなど過酷な自然環境にあります。鳥類は高い移動能力を持っていることから、多くの鳥は、夏の間だけこの豊かな自然環境を利用して去っていきます。その一方で、過酷な只見町の冬を乗り越えて生きる鳥もいます。季節を行きかう野鳥の姿を紹介するこの企画展が、只見町の自然を理解し、楽しむ一助となれば幸いです。



12月の厳しい風雪に耐えるハシブトガラス



5月の暖かな陽をあびて採食するムクドリ

鳥類の特徴と生態

日本は、北海道の寒帯から沖縄県の亜熱帯まで南北に長く広がり、その中には、標高3000メートル以上の山岳地帯、落葉樹の森林地帯、照葉樹の森林地帯、マングローブ林、干潟、小笠原諸島などの島嶼^{とうしょ}といった多様な環境が含まれています。鳥類の面白い点のひとつは、環境により異なる種が生息する点です。例えば、ライチョウは日本アルプスのハイマツ林のみに、タンチョウは現在では北海道の湿原のみに生息しています。多様な環境から成る日本では、確認されている鳥類は24目81科633種に及び、国内だけでも様々な鳥に出会うことができます。

また、季節によっても異なる鳥を見ることができます。ある地域に夏だけ生息する鳥を夏鳥、冬だけ生息する鳥を冬鳥、春や秋の渡りの移動中に一時的に立ち寄る鳥を旅鳥、一年中見られる鳥を留鳥と呼んでいます。ある鳥種が夏鳥か冬鳥かは、日本国内でも地域によって異なります。また、留鳥でも、そこにいた個体が季節によって移動し、一年を通じて見ると個体が入れ替っている例が知られています。冬の使者ハクチョウは遠くシベリアから日本に旅をしてきます。北極圏から南極圏まで地球を半周するキョクアジサシという鳥もいます。鳥類は、一对の翼で長距離を渡り、世界をまたにかけているのです。

鳥類は、大きくて見やすいため、その社会性や繁殖行動などが観察できます。軒先で繁殖するツバメは、求愛行動から巣作り、抱卵、子育てなど野生動物のくらしを間近で見せてくれます。時には、ヘビやネコに襲われ命を落とすヒナを目にし、生物同士の関係や自然の厳しさを私たちは学ぶことができます。鳥たちは、時に私たちに楽しみを与え、時に様々なことを教えてくれます。



遠くシベリアから旅をしてきたコハクチョウ



町中で繁殖するツバメ

只見町でこれまでに記録された鳥類

只見町でこれまでに記録された鳥類は19目49科155種です。

キジ目	カッコウ目	キツツキ目	スズメ目
キジ科	カッコウ科	キツツキ科	キバシリ科
ヤマドリ <i>Syrnaticus soemmerringii</i>	ジュウイチ <i>Hierococyx hyperythrus</i>	コゲラ <i>Dendrocopos kizuki</i>	キバシリ <i>Certhia familiaris</i>
キジ <i>Phasianus colchicus</i>	ホトトギス <i>Cuculus poliocephalus</i>	オオアカゲラ <i>Dendrocopos leucotos</i>	ミソサザイ科
カモ目	ツツドリ <i>Cuculus optatus</i>	アカゲラ <i>Dendrocopos major</i>	ミソサザイ <i>Troglodytes troglodytes</i>
カモ科	カッコウ <i>Cuculus canorus</i>	アオゲラ <i>Picus awokera</i>	ムクドリ科
マガン <i>Anser albifrons</i>	ヨタカ目	ハヤブサ目	ムクドリ <i>Spodiopsar cineraceus</i>
コハクチョウ <i>Cygnus columbianus</i>	ヨタカ科	ハヤブサ科	コムクドリ <i>Agropsar philippensis</i>
オオハクチョウ <i>Cygnus cygnus</i>	ヨタカ <i>Caprimulgus indicus</i>	ハヤブサ <i>Falco peregrinus</i>	カワガラス科
オシドリ <i>Aix galericulata</i>	アマツバメ目	スズメ目	カワガラス <i>Cinclus pallasii</i>
オカヨシガモ <i>Anas strepera</i>	アマツバメ科	サンショウクイ科	ヒタキ科
ヨシガモ <i>Anas falcata</i>	ハリオアマツバメ <i>Hirundapus caudacutus</i>	サンショウクイ <i>Pericrocotus divaricatus</i>	マミジロ <i>Zoothera sibirica</i>
ヒドリガモ <i>Anas penelope</i>	アマツバメ <i>Apus pacificus</i>	カササギヒタキ科	トラツグミ <i>Zoothera dauma</i>
マガモ <i>Anas platyrhynchos</i>	チドリ目	サンコウチョウ <i>Terpsiphone atrocaudata</i>	クロツグミ <i>Turdus cardis</i>
カルガモ <i>Anas zonorhyncha</i>	チドリ科	モズ科	マミチャジナイ <i>Turdus obscurus</i>
オナガガモ <i>Anas acuta</i>	イカルチドリ <i>Charadrius placidus</i>	チゴモズ <i>Lanius tigrinus</i>	シロハラ <i>Turdus pallidus</i>
トモエガモ <i>Anas formosa</i>	コチドリ <i>Charadrius dubius</i>	モズ <i>Lanius bucephalus</i>	アカハラ <i>Turdus chrysolaus</i>
コガモ <i>Anas crecca</i>	イソシギ <i>Actitis hypoleucos</i>	カラス科	ツグミ <i>Turdus naumanni</i>
ホシハジロ <i>Aythya ferina</i>	アメリカヒレアシシギ <i>Phalaropus tricolor</i>	カケス <i>Garrulus glandarius</i>	ノゴマ <i>Luscinia calliope</i>
アカハジロ <i>Aythya baeri</i>	カモメ科	オナガ <i>Cyanopica cyanus</i>	コルリ <i>Luscinia cyane</i>
キンクロハジロ <i>Aythya fuligula</i>	ユリカモメ <i>Larus ridibundus</i>	ホシガラス <i>Nucifraga caryocatactes</i>	ルリビタキ <i>Tarsiger cyanurus</i>
スズガモ <i>Aythya marila</i>	ウミネコ <i>Larus crassirostris</i>	ハシボソガラス <i>Corvus corone</i>	ジョウビタキ <i>Phoenicurus aureus</i>
ホオジロガモ <i>Bucephala clangula</i>	カモメ <i>Larus canus</i>	ハシブトガラス <i>Corvus macrorhynchos</i>	ノビタキ <i>Saxicola torquatus</i>
カワアイサ <i>Mergus merganser</i>	コアジサシ <i>Sterna albifrons</i>	キクイタダキ科	エゾビタキ <i>Muscicapa griseisticta</i>
カイツブリ目	ウミスズメ科	キクイタダキ <i>Regulus regulus</i>	サメビタキ <i>Muscicapa sibirica</i>
カイツブリ科	ウミスズメ <i>Synthliboramphus antiquus</i>	シジュウカラ科	コサメビタキ <i>Muscicapa dauurica</i>
カイツブリ <i>Tachybaptus ruficollis</i>	タカ目	コガラ <i>Poecile montanus</i>	キビタキ <i>Ficedula narcissina</i>
アカエリカイツブリ <i>Podiceps grisegena</i>	ミサゴ科	ヤマガラ <i>Poecile varius</i>	オオルリ <i>Cyanoptila cyanomelana</i>
カンムリカイツブリ <i>Podiceps cristatus</i>	ミサゴ <i>Pandion haliaetus</i>	ヒガラ <i>Periparus ater</i>	スズメ科
ハジロカイツブリ <i>Podiceps nigricollis</i>	タカ科	シジュウカラ <i>Parus minor</i>	ニューナイスズメ <i>Passer rutilans</i>
ハト目	ハチクマ <i>Pernis ptilorhynchus</i>	ヒバリ科	スズメ <i>Passer montanus</i>
ハト科	トビ <i>Milvus migrans</i>	ヒバリ <i>Alauda arvensis</i>	セキレイ科
キジバト <i>Streptopelia orientalis</i>	オジロワシ <i>Haliaeetus albicilla</i>	ツバメ科	キセキレイ <i>Motacilla cinerea</i>
アオバト <i>Treron sieboldii</i>	ツミ <i>Accipiter gularis</i>	ツバメ <i>Hirundo rustica</i>	ハクセキレイ <i>Motacilla alba</i>
ミズナギドリ目	ハイタカ <i>Accipiter nisus</i>	イワツバメ <i>Delichon dasypus</i>	セグロセキレイ <i>Motacilla grandis</i>
ミズナギドリ科	オオタカ <i>Accipiter gentilis</i>	ヒヨドリ科	ビンズイ <i>Anthus hodgsoni</i>
オオミズナギドリ <i>Calonectris leucomelas</i>	サシバ <i>Butastur indicus</i>	ヒヨドリ <i>Hypsipetes amaurotis</i>	タヒバリ <i>Anthus rubescens</i>
ウミツバメ科	ノスリ <i>Buteo buteo</i>	ウグイス科	アトリ科
コシジロウミツバメ <i>Oceanodroma leucorhoa</i>	イヌワシ <i>Aquila chrysaetos</i>	ウグイス <i>Cettia diphone</i>	アトリ <i>Fringilla montifringilla</i>
カツオドリ目	クマタカ <i>Nisaetus nipalensis</i>	ヤブサメ <i>Urosphena squameiceps</i>	カワラヒワ <i>Chloris sinica</i>
ゲンカンドリ科	フクロウ目	エナガ科	マヒワ <i>Carduelis spinus</i>
カワウ <i>Phalacrocorax carbo</i>	フクロウ科	エナガ <i>Aegithalos caudatus</i>	ハギマシコ <i>Leucosticte arctoa</i>
ペリカン目	オオコノハズク <i>Otus lempiji</i>	ムシクイ科	ベニマシコ <i>Uragus sibiricus</i>
サギ科	コノハズク <i>Otus sunia</i>	メボソムシクイ <i>Phylloscopus xanthodryas</i>	ウソ <i>Pyrrhula pyrrhula</i>
ミゾゴイ <i>Gorsachius goesagi</i>	フクロウ <i>Strix uralensis</i>	センダイムシクイ <i>Phylloscopus coronatus</i>	シメ <i>Coccothraustes coccothraustes</i>
ゴイサギ <i>Nycticorax nycticorax</i>	アオバズク <i>Ninox scutulata</i>	メジロ科	イカル <i>Eophona personata</i>
ササゴイ <i>Butorides striata</i>	トラフズク <i>Asio otus</i>	メジロ <i>Zosterops japonicus</i>	ホオジロ科
アマサギ <i>Bubulcus ibis</i>	サイチョウ目	ヨシキリ科	ホオジロ <i>Emberiza cioides</i>
アオサギ <i>Ardea cinerea</i>	ヤツガシラ科	オオヨシキリ <i>Acrocephalus orientalis</i>	カシラダカ <i>Emberiza rustica</i>
ダイサギ <i>Ardea alba</i>	ヤツガシラ <i>Upupa epops</i>	コヨシキリ <i>Acrocephalus bistrigiceps</i>	ミヤマホオジロ <i>Emberiza elegans</i>
チュウサギ <i>Egretta intermedia</i>	ブッポウソウ目	レンジャク科	ノジコ <i>Emberiza sulphurata</i>
コサギ <i>Egretta garzetta</i>	カワセミ科	キレンジャク <i>Bombycilla garrulus</i>	アオジ <i>Emberiza spodocephala</i>
トキ科	アカショウビン <i>Halcyon coromanda</i>	ヒレンジャク <i>Bombycilla japonica</i>	クロジ <i>Emberiza variabilis</i>
トキ <i>Nipponia nippon</i>	ヤマショウビン <i>Halcyon pileata</i>	ゴジュウカラ科	
ツル目	カワセミ <i>Alcedo atthis</i>	ゴジュウカラ <i>Sitta europaea</i>	
クイナ科	ヤマセミ <i>Megaceryle lugubris</i>		
ヒクイナ <i>Porzana fusca</i>	ブッポウソウ科		
オオバン <i>Fulica atra</i>	ブッポウソウ <i>Eurystomus orientalis</i>		

只見町における鳥類の特徴

只見町のおよそ9割は山林原野であり、平地は河川沿いにわずかに広がるのみです。山地帯には、多雪と雪崩の影響を強く受け形成された雪食地形が見られ、落葉広葉樹の広大な森林が広がります。また、浅草岳（標高1585.5m）や会津朝日岳（1624m）の森林限界付近では、矮性低木林や雪田草原が広がっています。山々に降った大量の雪は、とけて流れ出し、たくさんの沢を形成して溪流から河川へと流れ下ります。河川周辺には水辺林が形成され、また川によって運ばれた肥沃な土壌が氾濫原をつくり、田畑として利用されています。このように変化に富んだ地形と植生を持つ只見町では、それぞれの環境に特徴的な鳥を見ることができます。

只見町の鳥類は、森林性の種が多く、他方で、草原性の種や水鳥類が少ないという特徴があります。ワシタカ類は、その中でも種類が多く、日本で繁殖するワシタカ類の8割が確認されています。同様にブッポウソウ目では日本で繁殖する4種すべてが、カッコウ目では5種のうち4種が確認されています。

また、森林性の鳥類である、オオルリ、キビタキ、クロツグミといった鳴禽類めい きんるいのほか、アオバト、ヨタカ、ハリオアマツバメ、フクロウ、キツツキ類などが町内全域で確認されていることは、只見町の森林の豊かさを象徴しています。

只見町で確認されている鳥類は、夏鳥が半数近くを占め、冬鳥は、カモ類を除くと、毎年見られる種はわずか5種と極めて少なくなっています。留鳥は、ワシタカ類とキツツキ類、カラ類などに限られています。すなわち、只見町では、鳥類の移り変わりが季節の変化を示す指標となっていると言えます。



飛翔しながら食物を探すミサゴ



樹木に残るキツツキの開けた穴



森林を代表する鳥、キツツキの一種アオゲラ